



永久平和を願って

私の戦争体験談 ⑫

次世代に戦争体験を語り継ぎたい

秘書広報課 ☎24-8801
FAX 24-8860

地平線を見ながら

過ごした少年の日

城東町 小佐古公士さき

「歩調をとれ！」校門へ入ろうとしたその時だ。国民学校初等科5年生1君が、7人の登校班の先頭に出て号令をかけた。

私は4年生、弟は1年生、城北小からの転入生だった。昭和18年である。この春には、山本五十六連合艦隊司令長官機がブーゲンビル島上空で撃墜され戦死、秋には出陣学徒壮行会が、雨の中、神宮外苑競技場で盛大に挙行政され、戦



戦争ごっこで一休み。背景に建設中の官舎(昭和19年初夏)

況は慌ただしくなってきた。父は、家族をソ満国境近くの日本軍基地の町に呼び寄せたのである。関東軍の航空隊に赴任して以来3年越しの念願であったようだ。

一校舎はレンガ造りの平屋一棟で、草原の中にぽつんと建ち、満州人の町や日本軍基地が離れてあった。運動場の向こうは草原に続く草原で、ずっと向こうに地平線が見えていた。

全校生は30人足らず、軍人、軍属の子女と日本の商社の子女だけの日本人学校であった。6年から4年と、3年から1年の2クラスに編成した複々式の授業であった。学校名を「杏樹在満国民学校」と呼んでいた。

この学校では、知的能力より戦いに勝ち抜く力を培おうとしていたのだらう。内地には無かった科目で「教練」と「作業」があった。(後に戦況不利になった頃には内地の学校と同じだったのだが)「教練」は一人一

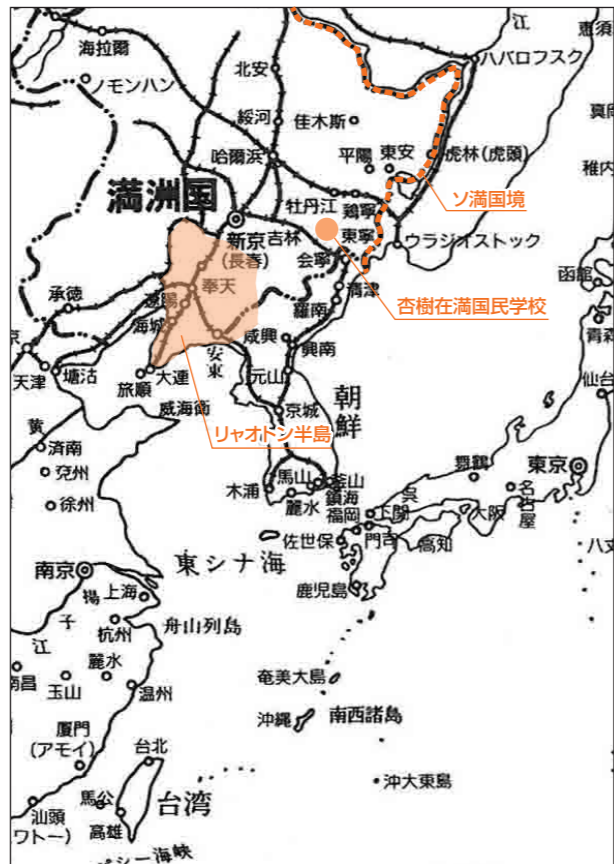
人が兵隊さん用の木銃を携え、広々とした校地を生かして設けた障害物や塹壕、防空壕を次々攻め立て、訓練の最後はわら人形の敵兵に「突撃！」の命令のもと突進し、木銃を突き刺して終わりというものだった。小4の私は上級生のやり方を見よう見まねで必死だった。

大豆の収穫が終わると、間もなく冬が来た。満州には春と秋が無いと聞いていたが短い。水が張り始めると、運動場のトラック部分に水を流してスケートリンク作りの作業が待っていた。4年以上が担当で2人1組の6組で交代して当たった。水は地下水を手動式ポンプで汲み上げ、それを樋に流し込んで順次広げるといやり方であった。苦しみながらも目に見えてリンクができていく様子に、努力のあとが見えて楽しめた。いよいよスケートだ。初心者私であったが5年のY君の手解きで数メートル転ばず滑れたときは忘れられない。毎日、放課後になるとリンクに出た。しばらく滑ると極寒でも体が火照り、滑る楽しみはタイムを競う楽しみに移り、陽が傾くまで滑った後、リンクの補修をして下校した。満ち足りた冬の日々だった。



できたぞ! 天然スケートリンク。基地で働く人たちと(昭和19年1月頃)

この学校の特色に、兵隊さんとのつながりがあった。週に1回、半日であるが兵隊さんが指導に来てくださるのである。師範学校卒の兵隊さんだったので、子どもの心理を理解し子どもたちを喜ばせる授業であった。会える日が楽しみで、特に本の読み聞かせは待ち望まれた。先生は野中上等兵と斎藤伍長といった。いつからか来な



くなつたが、戦場に赴いたのだらうか。戦死されたのだらうか。もう1つある。町の中央にホールを備えた会館があつて、ここで何回か慰安会が催され、その都度、子どもたちには賛助出演の声

がかかった。出演するより兵隊さんの出し物にひかれた。そこには大人文化のおもしろさがあったからだ。落語、漫才、芝居……特に「どじょうすくい」は、抜群のおもしろさだった。その頃流行して



満州の自宅玄関前で筆者(当時4年生)左と弟(1年生)。帽子は城北小学校の制帽

いた古賀政男の歌もあった。
花摘む野辺に日は落ちて……
……ああ誰か故郷を思わざる
聞き入っていた兵隊さんの面差しが思い出される。歌の題名が反対のことを疑問形で表現したところが、望郷の念を一層強くにじませていると後々思った。
目まぐるしい学校生活を送っているうちに1年が過ぎ、昭和19年の6月になっていた。7月にはサイ

パン島で、日本の守備隊が玉砕。身辺がにわかになつていくなつていた。父が属していた航空隊は、精銳の関東軍と共

に満州を後に南方に動員命令がくだつた。父は私たち兄弟を座敷に呼び「比島(フィリピン)へ行く。母を助け、兄弟力を合わせて生きよ」と短い言葉を遺し、翌日、家を出た。夕方、見送りに行ったら大勢の兵隊さんも乗りこんでいた。列車はくれないなすむ夏の地平線に向かつて煙と一緒に少しずつ小さくなって南へ消えていった。

※写真はすべて筆者提供

用語の説明

関東軍 中華民国からの租借地だった関東州(リャオトン半島の守備や南満州鉄道の付属地の警備をした部隊。
軍属 軍人(武官または兵)以外で軍隊に所属する人。例えば、主計や通訳、法務などの事務的業務、車両・航空機など保守点検や整備をする人など。

夏休み 戦争体験講話会

無料

秘書広報課 ☎24-8800
FAX 24-8860



2度と戦争を繰り返さないよう、戦争体験者から当時の話をお聴きして、戦争を知らない世代に、戦争の悲惨さや平和の尊さなどについて語り継いでいく「戦争体験講話会」を開催します。ぜひ参加してください。

- 日時 1回目: 8月10日(木) 午後1時半~午後2時15分
2回目: 8月15日(火) 午後1時半~午後2時15分 (同じ内容で2回開催)
- 場所 クリントピア丸亀3階 研修室3(土器町北)
- 対象 小学生とその保護者
- 語り部 實近昭紀さん(土器町) 題: 「6歳の少年が見た 原爆の光と雲」
- 定員 各回30人(申込順)
- 申込方法 電話またはFAXで「氏名・学校名・学年・住所・電話番号」をお知らせください(当日の申し込みも可能)。
- その他
 - 小学生対象の講話会ですが、興味のある人は、どなたでも参加可能です。
 - 講話会終了後に、次の体験講座に参加できます(小学生のみ。各講座10人まで)。
 - 1回目: サンドブラスト体験(ガラスコップなどの表面に模様などを刻む)(500円)、古布体験(300円)
 - 2回目: サンドブラスト体験(500円)、木工体験(300円)
 (写真は實近さん提供)